

医道の日本

7

July
2011

The Japanese Journal of
Acupuncture & Manual Therapies Vol.70 No.7

医道の日本社

第70巻 第7号(通巻814号) 2011年7月1日発行(毎月1回1日発行)
1946年8月19日第三種郵便物認可 ISSN 0287-6760

<http://www.idononippon.com>

【巻頭インタビュー】

ストレス対処力の伸ばし方

山崎喜比古(財団法人パブリックヘルスリサーチセンター附属ストレス科学研究所特別研究員)

特集

女性疾患と鍼灸治療

服部米子 平沼公代 中純子 喜多村美亨

【連載対談】「触れる 語る」南雲三枝子・形井秀一

治療院開業時のあいさつ回り

東日本大震災被災地医療 ボランティア活動の報告

遠絡療法ベレス・銀座クリニック セネラルマネージャー かわいともみ
川井朋美

●はじめに

2011年3月11日、太平洋三陸沖に発生した東日本大震災は、多大なる被害をもたらしました。この災害により多くの方々が高貴な命を亡くされ、そして多くの方々が家・財産を失うという被害に遭われたことに、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

ベレス・銀座クリニックの治療チームは、大がかりな治療道具や薬を必要とせず、場所や状況を選ばずに患者の治療ができる「遠絡療法」の特性を活かし、ボランティア活動を主な目的としたNPO法人「国際遠絡療法協会」の活動の一端を担っています。

この震災に対しても、被災地の方々にも少しでもお役に立ちたいと、かねてから医療ボランティアを申し出ていました。たまたま「遠絡療法」創始者の医師・柯尚志の教え子であり、自身も被災して大きな被害を受けた岩手県下閉伊郡山田町出身の柔道整復師・山内春雄氏との縁で、5月6日から9日の4日間にわたり山田町周辺の数カ所の避難所で、また15日、16日の2日間を大槌町の避難所数カ所と宮古市田老町の避難所において、治療を行うことができました。

その活動と現地の様子を報告させていただきます。

●現地での活動

5月9日、柔道整復師である山内春雄氏、山内雄太氏、残間俊哉氏、ベレス・銀座クリニック・スタッフ、理学療法士の大和竜規氏、堂下佐知子氏らとともに、山田町の避難所、ふるさとセンターに到着しました。高台にある避難所から見下ろす町並の先には、津波と火災による被害で変わり果てた地域が広がり、テレビや新聞の報道で知らされていたものの、実際に訪れてみると、惨状は目を覆うばかりでした。

早速、押し棒とレーザー治療器のトリンプルDを使って遠絡療法の治療を始めました。みなさん最初は遠慮がちでしたが、治療を受けた方が腰の痛みが消えた笑顔を見せられたのをきっかけに、次々と治療をさせていただくことができました。

翌8日からは田老町にある大きな非難所で治療を開始しました。この避難所では、段ボールで区画されたスペースを被災者に提供していますが、その一区画を治療スペースとして、柔道整復師である大泉賢司氏、瀬戸正信氏、菊池英司氏も加わり、遠絡療法の治療を行いました。

腰痛や膝痛を訴える方、精神的にも肉体的にも疲労し、夜もぐっすり眠ることができない方、頭重感が取れなくつらい方など、さまざまな症

状の治療に当たりました。

また今回の震災では、多くの子もたちが不安や恐怖心から緊張が高まり、急に大声を発したり乱暴になったり、神経過敏になる症状がみられるといいます。この避難所でも夜電気が消えると泣きわめくという小学2年生の男の子に、柯院長がマイナスイオンパッチを貼って遠絡療法の治療を行うと、数時間後には憔悴しきっていた男の子がすっかり元気になって、他の子どもたちと追いかけてくをしていました。この子はその後よく眠れるようになっただけでなく、多汗症も治りました。

また80歳過ぎの認知症の出ている女性に対して、中枢性の治療を行い、さらに足がふらふらしているというので腰の治療をしたところ、今まではっきりと話ができなかったご本人から、「モヤモヤしていたのがなくなった」という言葉がでて、しっかり歩けるようになりました。

遠絡療法は局所の痛み治療だけでなく中枢の治療を本来としているため、精神面での安定をもたらすことができ、精神不安や頭のモヤモヤなどの不定愁訴に対しても効果が見られます。

そんな中で5月6日約25名、7日約45名、8日約60名、9日約45名の方々の治療に当たることができました。

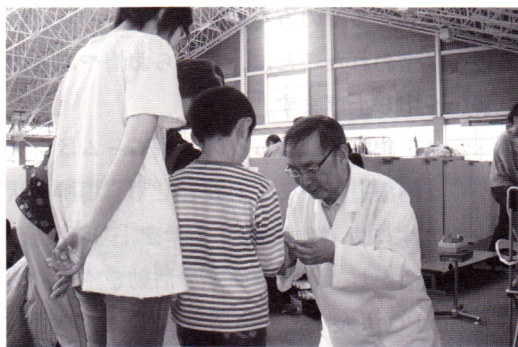
続いて5月15日は、大槌町の避難所になっている安度小学校と安度寺、二渡神社へ、16日は前の週に訪れた宮古市田老の避難所を訪れました。

今回は院長柯尚志医師を始めとするペレス・銀座クリニック医療チームと現地の柔道整復師・山内春雄氏のほか、医師・小泉正弘氏（埼玉県）と柔道整復師・加藤剛氏（秋田県）も活動に加わりました。

二渡神社や安度小学校の避難所は瓦礫で道が



1回目のボランティアで訪れた、岩手県下閉伊郡山田町。沿岸部のため、甚大な津波と火災の被害を受けた



避難所にいた小学生の男の子に、マイナスイオンパッチでの遠絡療法の治療を行う柯院長。治療後の男の子の笑顔が印象的だった



トリンプルDを用いた遠絡療法の治療の様子。腰痛が軽くなったという声が聞こえた



2回目のボランティアで訪れた大槌町も、津波による壊滅的な被害を受けた



災害時の恐怖や、避難所生活の疲労により、心の不調を訴える方も多かった

2. 対象者の属性について
 塞がれて通信が断絶されてしまい、地震の5日後にやっと外部から安否が確認されたということで、避難者の方々の苦労は大変なものでした。

やはり身体のあちこちの痛みを訴える方や不眠を訴える方が多く、加えて長い避難所生活で免疫力が低下し、風邪もなかなか治らないという方も多くいました。

今回は前回治療を受けた方々から「あの後からずっと腰が楽でいられました」「足が調子よくなってうれしかった」「不眠症だったのがこの1週間よく眠れました」などの声をいただき、



二渡神社での治療の様子。大槌町周辺の避難所の状況は特に厳しかった

症状や体調をその場で改善できる遠絡療法の利点を改めて実感させられるとともに、こちらも大変励まされました。

●最後に

今回も5月15日に106名、16日に31名という大勢の方に治療を提供することができ、喜びを共有することができました。今後も1人でも多くの方の役に立つよう息の長い支援活動を行っていきたいと思っています。